

中期計画変更素案についての公立大学分科会等からの意見と対応（案）

番号	中期計画変更素案（2月5日）【下線は現行計画からの変更箇所】	公立大学分科会等における意見の要旨	中期計画変更案文への反映等【下線は素案からの修正案】	資料2
	I 首都大学東京の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置			
	1 教育に関する目標を達成するための措置			
1	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 ◇教育課程の見直し ① 豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材を育成するため、 <u>卓越した研究者による高度かつ熱心な少人数教育や総合大学の特長を活かした分野横断的な学びを促す教育等を推進するとともに、全部局におけるカリキュラムの再構築を平成30年度に行う。</u>	「卓越した研究者による高度かつ熱心な少人数教育」という表現に違和感。「卓越した」とあると、ノーベル賞受賞者が講義してくれるのかなという印象。「熱心な」という言葉も、大学教育の中でそういう言葉が適しているのかとも思う。教育内容が充実とか、少人数教育とかで十分通じるのではないか。	表現を修正（TMU Vision 2030の中の文言を使用） 「 <u>卓越した研究者でもある教員による高度できめ細かい少人数教育や総合大学の特長を活かした分野横断的な学びを促す教育等を推進するとともに、</u> （以下略）」 【参考】TMU Vision 2030 より（＜教育＞） 戦略1「本物の考える力」を育成するための <u>高度できめ細かい教育</u> の推進 （2）卓越した研究者による高度かつ熱心な少人数教育 「 <u>卓越した研究者でもある教員が、1人ひとりの学生に真剣に向き合う教育を実践</u> 」	P 4
2	(4)入学者選抜に関する目標を達成するための措置 ◇高大連携等の推進 ③ <u>本学の持つ高い教育力・研究力を生かし、都立高校等を対象とした教育支援等により連携強化を図るとともに、都立高校生の入学を促進するAO入試等の多様な選抜を拡充する。</u>	「都立高校等を対象とした」とあるように高大連携は教育についての内容であり、高校生に対して「研究力」が必要なのかと感じた。	素案のまま 都教育委員会との連携により、「都立高校生のための先端研究フォーラム」や、科学技術に対する興味・関心のある都立高校生を対象とする「理数研究ラボ」など、大学の研究力を生かした取組を進めている。	P 6
	2 研究に関する目標を達成するための措置			
3	(1)研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置 ◇基礎研究と課題解決型研究の推進 ② <u>東京都立の総合大学として、多様な主体との連携強化、分野横断的・学際的研究プロジェクトの立ち上げ等により、東京をはじめとする大都市の先端的課題の解決に資する研究を推進する。</u>	「主体」とは何なのか。「組織」などの表現ではどうか。	表現を修正（中期目標等の文言を使用） 「 <u>東京都立の総合大学として、多様な機関・企業等との連携強化、分野横断的・学際的研究プロジェクトの立ち上げ等により、</u> （以下略）」 【参考①】第三期中期目標 「東京都をはじめとする <u>自治体、試験研究機関、企業、他大学等の様々な機関</u> と連携した教育研究を推進」 【参考②】TMU Vision 2030より（＜研究＞） 戦略1 多彩な基礎研究と社会協創する応用研究の推進 （2）学外のパートナーと緊密に連携した応用研究の推進 「東京都をはじめとする <u>公的機関、企業等の学外のパートナー</u> と緊密に連携して応用研究を推進」	P 6
	3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置			
4	(1)都政との連携に関する目標を達成するための措置 ◇施策提案 ① 都民生活の質的向上を図るため、子供の貧困や火山災害対策等の課題解決に向けて、 <u>都民・都政のニーズを的確に反映した解決策等の提言・提案をこれまで以上に行えるよう、都立の大学として全学的な都連携推進機能を一層強化し、首都東京のシンクタンクとしての役割も果たす。</u>	「都民」と「都政」が、「ニーズ」の前に並列して並んでよいのか。	素案のまま 都民生活からのニーズと都政の政策課題からのニーズといった趣旨であり、中期目標においても同様の文言が用いられている。 【参考】第三期中期目標（変更後）「教育研究の成果を都政・都民等に還元」	P 8

番号	中期計画変更素案（2月5日）【下線は現行計画からの変更箇所】	公立大学分科会等における意見の要旨	中期計画変更案文への反映等【下線は素案からの修正案】	資料2
5	(2)社会貢献等に関する目標を達成するための措置 ◇生涯学習 ⑤ <u>人生100年時代を豊かに過ごせる生涯現役都市の実現に寄与する「100歳大学」の取組の一環としてTMUプレミアム・カレッジを開講するなど、東京都立大学が有する豊富な教育研究資源を活かすとともに東京都と緊密に連携し、シニア層の更なる学びの意欲に応える、新たな学びと交流の場を提供する。</u>	「100歳大学」という言葉がいきなり出てくる。前後に定義されているところがない。	脚注を追加 かぎ括弧付きのいわゆる「100歳大学」の内容は、その前段の「人生100年時代を豊かに過ごせる生涯現役都市の実現に寄与する」により示している。 ただし、「TMUプレミアム・カレッジ」には脚注を付け、その概要を説明する。	P 9
Ⅱ 産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置				
3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置				
6	(2)社会貢献等に関する目標を達成するための措置 ◇社会人リカレント教育と学修コミュニティの充実 ③ <u>起業・創業・事業承継等に必要な知識及びスキルを短期間で修得できるよう、大学院教育（修士課程）レベルでの学び直しのためのプログラムを提供する。</u>	(東京都から) AIITシニアスタートアッププログラムを想定した事項の追加だとすると、ここでも「100歳大学」の取組の一環であることに触れたほうがよいのではないか。	「100歳大学」についての文言を追加（首都大と共通の文言を使用） 「 <u>人生100年時代を豊かに過ごせる生涯現役都市の実現に寄与する「100歳大学」の取組の一環として、シニア層が起業・創業・事業承継等に必要な知識及びスキルを短期間で修得できるAIITシニアスタートアッププログラムを開講するなど、大学院教育（修士課程）レベルでの学び直しのためのプログラムを提供する。</u> 」 また、「AIITシニアスタートアッププログラム」に脚注を付け、概要を説明する。	P 14
Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置				
1 教育に関する目標を達成するための措置				
7	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 ① <u>社会の変革をもたらす第4次産業革命の中で、新しいものづくりを牽引する実践的技術者を育成するため、本科教育コースを再編する。また、次世代の医療機器開発を担う技術者を育成するため、コース横断型の医工連携教育を実施する。</u>	(素案の段階では見出しを省略)	項目に見出しを追加 「 <u>◇新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成</u> 」	P 15
Ⅷ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画				
8	(素案の段階では記載を省略)	(中期計画の変更内容を踏まえ東京都と調整)	中期計画の変更内容を反映させ一部変更	P 24 ～26
(全般) 年の表記				
9	(計画変更の対象とならない部分と変更素案部分とで異なる表記が混在) 「平成29年4月1日から平成35年3月31日まで」 「 <u>2020（平成32）年</u> 」 など	(改元に伴う公文書における年の表示等の変更の取扱いでは、新元号は5月1日以降に起案する公文書から使用)	該当箇所を新元号に変更するが、平成31年度年度計画と同様の形で西暦を併記 「平成29（2017）年4月1日から令和5（2023）年3月31日まで」 「令和2（2020）年」 など	P 1, 3 等多数